

令和4年度「Plus One～世界へ漕ぎ出すプログラム～」実施報告

令和5年3月31日現在

◎：学校独自プログラム ●：しまのみらいプロジェクト ○：県機関と連携するプログラム

日 付	活 動 名	参加者
5月20日	●しまのみらいプロジェクト 第1回参加者説明会	9名
6月6日	●しまのみらいプロジェクト 1年生説明会	約130名
6月6日	●しまのみらいプロジェクト 第2回参加者説明会 この後、各チームに分かれて活動（放課後、休日、長期休業日等）	26名
6月6日	◎樫風ゼミ① 「豊かな海を残すために」 講師：クリーンオーシャンアンサンブル代表理事 江川裕基 氏	2・3年生 約300名
6月6日	◎クリーン作戦（蒲生・池田地区清掃活動）	約300名
7月18日	○SASP（せとうちアートサマープログラム） 夏季休業中を中心に、各自が指定された日に参加 最終プレゼンテーション 8月26日（金）	3名
7月30日	○瀬戸内国際芸術祭ミニガイドツアー① 中山地区探訪 講師：こえび隊、瀬戸内国際芸術祭推進課の方	6名
8月1日	◎樫風ゼミ（保護者版） 「親として子供を成長させる10の条件」 講師：日本進路指導推進協議会会長 山口和士 氏	保護者 34名
8月2日	◎樫風ゼミ② 「これからの世界を拓く年若き同志達へ」 講師：日本進路指導推進協議会会長 山口和士 氏	52名
8月12日	◎小豆島 SDGs バッジ選考委員会 9月28日 プレス発表会（オリーブ公園）	代表生徒 1名
9月11日	○瀬戸内国際芸術祭ミニガイドツアー② 土庄町迷路のまち、草壁港探訪 講師：こえび隊、瀬戸内国際芸術祭推進課の方	3名
9月26日	◎樫風ゼミ③ 小豆島・土庄両町長との対談 講師：小豆島町長 大江正彦 氏、土庄町長 岡野能之 氏	15名
10月2日	○瀬戸内国際芸術祭ミニガイド体験	6名
10月2日	○香川大学ジオアート Jr.マイスター講座 この後、月に1回程度の割合で参加 講師：香川大学教授 他	4名
10月3日	◎樫風ゼミ④ ヨガ de からだスッキリ 講師：ヨガ講師 西上桃世 氏	7名
10月17日	◎樫風ゼミ⑤ 高校生レストランに参加しよう 講師：本校家庭科教員	7名
10月17日	◎樫風ゼミ⑥ 数学の話と大学院の謎 講師：東京大学大学院数理科学研究科 教授 平地健吾 氏	38名
10月28日	◎樫風ゼミ⑦ 教員になろう！～高校生のための教職説明会～ 講師：香川県教育委員会事務局職員 本校OBの教職員	10名
10月29日	◎第3回小豆島こどもサミット 小豆郡内小学校・中学校・高等学校代表生徒（会場：本校）	10名
10月31日	◎樫風ゼミ⑧ 小豆島のおじいちゃん、おばあちゃんの秘密 講師：小豆島町地域包括支援センターの方々	臨時休校
11月12日	◎オリーブ収穫ボランティア（池田港近辺のオリーブ畑）	約100名
11月14日	◎樫風ゼミ⑨ 公務員って？ 講師：本校教諭	14名

12月9日	●しまのみらいプロジェクト 「しまいろ」編集打合せ	40名
12月15日	◎権風ゼミ⑩ 韓国の高校生との交流	10名
12月18日	◎小豆島中央高校生レストラン（オリーブ公園 サン・オリーブにて） 来客数：75名	7名
以降、今年度の主な予定		
1月27日	◎権風ゼミ⑪ 医療従事者の仕事・看護師の仕事 講師：神戸市立医療センター西市民病院 看護師 岡 秀人 氏	19名
1月29日	◎権風ゼミ⑫ 理想の暮らしに必要な都市機能、防災対策（WS参加） 講師：土庄町役場 建設課の方々	本校関係者 2名
2月28日	●しまのみらいプロジェクト 「しまいろ」配布	
3月16日	◎権風ゼミ⑬ これからは毎日が探究 講師：香川大学講師および学生2名、専門学校の先生方	1・2年生 約290名

◎ 学校独自プログラム

◎ 権風ゼミ

主に放課後に開催。各界のプロや地域の方、学生などの話を聞いたり、対談したりすることによって、自らの視野を広げたり適性を発見したりするヒントとし、今後の生き方や進路実現のためのヒントやきっかけを学び取ったりする講座である。講義形式や対談形式、ワークショップなど形態は様々で、生徒の主体性や能力も高めることをねらいとする。



8月2日 進路講演会

「これからの世界を拓く年若き同志達へ」

夏季休業中の強化学習会である「島高夏塾」の一環として、日本進路指導推進協議会会長である山口和士先生から進学を控えた高校生に対してご講演いただきました。不確実な時代を生き抜く者としての生き方やありかたなどキャリアに関する内容と、今後の学習のすすめ方など今後の自分たちの行動についてとの内容で、学習する意義と学習方略についての示唆をいただきました。

9月26日 小豆島町・土庄町 両町との対談

小豆地区の2町の町長と高校生が、今後の小豆島について意見交換を行いました。これから小豆島を築立つ者として、どのような条件が今後の小豆島の持続性を維持していくために必要かという視点で、高校生の目線での意見が提案され、両町長から現状や今後の取組にどう結び付けていくかについて説明をいただきました。

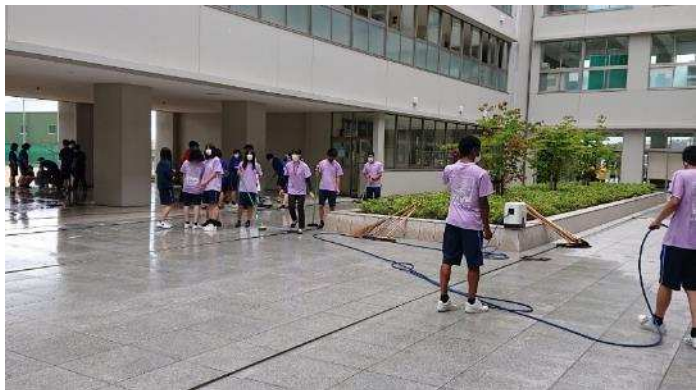


◎ 地域行事等への参加

生徒会や文化部を中心に、地域の各種イベント等に出向いてパフォーマンスやボランティアを行うことを通して、生徒の地域貢献への意識を育むことを目的としている。小豆地域唯一の高等学校として、地域とのつながりを深めることをねらい、できる限り参加をしている。今も感染症拡大が懸念されるが、対策を講じながら貴重な機会を活かして地域に還元する活動を実施した。

6月6日 クリーン作戦（蒲生・池田地区清掃活動）

2・3年生は、普段お世話になっている蒲生地区一帯に分かれ、海岸線から住宅地内までの清掃活動を行いました。その際、海洋環境保護の観点からの講話を受け、美しい小豆島を未来に残すためのヒントと、具体的な行動について再認識しました。1年生はこれから的高校生活のステージである校舎内の清掃活動を行い、学校に対する愛着を深めました。



12月18日 小豆島高校生レストラン

本年度も道の駅オリーブ公園との共催で、生徒が考案したオリーブを使った料理を地域の人々に提供しました。今回は調理、接客などの他、進行も高校生が務め、とても和やかな雰囲気で開催することができました。



● しまのみらいプロジェクト

多くの高校生は卒業後、小豆島を離れる。その前に島の良さを再認識したり、島で生活する人たちの生き方に触れたりすることを通して郷土への愛着をもってもらい、将来は地元に戻ってくるきっかけとするというねらいをもったプロジェクトである。活動の成果は、フリーペーパー『しまいろ』を島内の主要な場所に置いてもらうことで、島内外の人に広く高校生の活動をアピールできることを期待している。

商品開発

一般社団法人みなとラボさんと連携し、『海洋デザイン教育プロジェクト』の一環として日本財団の助成を受けて『おさんぽ BINGO@一小豆島一』をメンバー全員で制作しました。小豆島の魅力や見どころなどをみんなで出し合い、精選して小豆島ならではのものを取り入れた商品に仕上げました。その後、実際に売り込みに行くことも経験でき、社会人としてのプレ体験と、これからの小豆島の魅力の持続可能性について考えるきっかけをいただきました。



小豆島の魅力体験

小豆島の魅力を掘り起こす活動では、マリンスポーツ体験や島の離島訪問などを計画しましたが、天候等の関係で実現しませんでした。ロッククライミングやボルダリングの体験をすることができ、小豆島の新たな魅力を発見しました。

小豆島で活躍する人にインタビュー

小豆島に移住して活躍する人や、現在小豆島で働いている人など数名にインタビューを行い、小豆島に移り住むようになったきっかけや、今の生き方に至った経緯、大切にしていることなどを聞くとともに、小豆島の魅力や課題について教えてもらいました。これからの生き方についての見方が広がり、外から見た小豆島を知ることができました。

SNS 等を利用した小豆島の魅力発信

高校や小豆島の魅力を映像を中心に、全世界へ発信しようと活動しています。YouTube や Instagram などの SNS を利用して、私たちが生活しているところの魅力を外部の人に継続して発信していく予定です。



○ 県機関と連携するプログラム

○ 瀬戸内国際芸術祭ミニガイドツアー&ミニガイド体験

瀬戸内国際芸術祭で小豆島に訪れる島外や国外からの観光客とのコミュニケーションを通して、地元を深く理解する姿勢とコミュニケーション能力や意欲の向上を目的とする。

瀬戸内国際芸術祭実行委員会と連携し、瀬戸内国際芸術祭や作品のレクチャーを受けたり、作品制作に携わる人の話を聞いたりした後、実際に芸術祭に参加される人に対してガイドを行った。

7月30日

瀬戸内国際芸術祭ミニガイドツアー① 中山地区探訪

瀬戸内国際芸術祭の作品の1つがある中山地区を訪れ、こえび隊の方による芸術祭の説明、自治会長さんから芸術祭による地域の変化についての説明を受けました。その後、開催前の作品を見学するとともに、作者のご家族と対面し、参加生徒から作品制作過程について、作品のコンセプトや地域の人とのかかわりについて、英語を中心とした質問がなされました。

後日に行われた作品探訪では、実際に作品制作に関わった地元の建設業者の方からも話を聞くことができ、芸術祭が地域に及ぼす影響についての理解を深めました。



10月2日

瀬戸内国際芸術祭ミニガイド体験

瀬戸内国際芸術祭の本番が開催される本年は、本校生が観光客を中心に、中山地区と草壁地区の作品を紹介しました。

主に県外から訪れた人に対して、作品やそのコンセプトに始まり、その地域の歴史や自分たちと小豆島に関するエピソードなどを説明したり、一緒に写真をとったりするなどして交流を深めました。

実際に高校生が案内することによって、その場が和んだ雰囲気になり、観光客の人々に対して小豆島のよい思い出を持ち帰ってもらえることができました。